

素人が支援者になるプロセス

—学生ジョブコーチと環境とのインタラクション—

A process of a nonprofessional becomes a human service practitioner.

—The interaction between student job coach and environment—

高山仁志・山田沙樹・土田菜穂・中鹿直樹

Hitoshi Takayama, Saki Yamada, Naho Tsuchida, Naoki Nakashika

立命館大学大学院人間科学研究科

Graduate School of Human Science Ritsumeikan University

Key words: 学生ジョブコーチ, 支援者教育, インタラクション, 「できる」の拡大

目的

立命館大学における学生ジョブコーチの取り組みとは、キャンパス内にある模擬店舗に特別支援学校の生徒を招き、就労実習場面で大学生や大学院生がジョブコーチ(職場適応援助者)の役割を担当し、間接的・直接的支援を行う取り組みである(望月, 2007; 中鹿, 2018)。

学生ジョブコーチの取り組みは他にも行われているが(たとえば北爪・金沢・松田, 2011)、立命館大学での取り組みにおいてもっとも重視しているものが生徒自身の「できる」の拡大である。ここでの「できる」とは、指示によってさせられる課題や、あらかじめ決められた業務の自立遂行率などのことではなく、そうした枠組みから外れた生徒自身のやりたいことを、環境を整えることで成立する自発的な正の強化を受ける行動のことを指す。

学生ジョブコーチは、こと支援においては素人である学生が支援者としての役割を担うものである。特別支援学校における支援者支援の研究として、教員の生徒に対する支援行動の変容に着目した研究はあるが(土田, 2018)、これまでその素人である学生ジョブコーチが、支援者としての振る舞いをいかにして身につけるのかについては検討されてこなかった。そこで本研究では、はじめて学生ジョブコーチの役割に就く大学生を対象に、模擬喫茶店舗における障害のある生徒に対する実習を通して、ジョブコーチとしての振る舞いの変化していくプロセスを記述し、その変化の要因について検討することを目的とする。

方法

場所 立命館大学の構内に設置された模擬喫茶店舗であった。

期間 201X年9月Y日~201X年9月Y+4日の計5日間であった。

対象者 特別支援学校に通う高校1年の男子生徒1名(以下、対象生徒とする)、および立命館大学総合心理学部に所属する大学生1名(以下、学生JCとする)であった。なお、実習に入る前段階において対象生徒の保護者に実習の説明を行い、書面にて実習参加への同意を確認した。

実習の1日のスケジュール 対象者らは、午前と午後と共に喫茶店業務に取り組んだ。各業務に入る前には対象生徒の目標を学生JCが確認する時間を取り、業務終了後には振り返りを行った。

手続き 対象生徒は模擬喫茶店舗の従業員として、学生JCは店長として実習に参加した。

対象生徒は、学生JCによって作成された喫茶店業務に必要な行動の課題分析に基づいた手順書を参照しながら、一連の喫茶店業務を行った。学生JCは、対象生徒の行動をそばで見守りながら、適宜フィードバックや指示を与えた。また、学生JCの他に実習のサポートおよび記録係として、2名~3名のスタッフが常駐し、学生JCに対して指示やフィードバックを与えた。

結果

学生JCのフィードバックの変化 実習初日午前中の学生JCのフィードバックは「はい」「上手です」「すごいです」などの定型文が多かったが、時間が経過するにつれて、両手でサムズアップをしながらのジェスチャーや、対象生徒が発した「イエース」などの言葉を使用するなど、様々な質的な変化が見られた。

学生JCの指示の変化 実習開始当初から2日目午前中までは、常に手順書を持ちながら対象生徒についていたり、言語的な指示をすぐに出すことが多かったが、2日目午前中の途中からは対象生徒に業務を任せようになり、手順書の提示や指示についても「待つてから」出すようになった。

考察

本実践の学生JCの行動は、特に初日の午前中はまだまだ「硬い」と表現できるようなものであった。しかし、対象生徒のできるを拾い、褒め続けることで対象生徒の自発的な言語行動が増加し、それらの言語行動に応える(雑談する)ことが増える中で、互いに了解可能な言語的な相互作用が生まれたと考えられる。また、周囲のスタッフの対象生徒への接し方がロールモデルとなり、それによっても行動が変化したと考えられる。支援者の行動の成立に必要なものは、そうした支援行動が生起する環境との相互作用であることが示唆された。